



発行所
宇都宮市中央3-11-13
常照寺
宇陽山
028-634-4205
発行人 角田和道
編集人 青木 昭

5 月 号

日 歡 上 人 ご 祥 月 ・ お 供 え 教 化 必 成
前 期 ご 奉 公 締 切 月 ・ 正 宗 徒 各 教 区 増 加
ご 奉 公 成 就 の た め 朝 参 詣 精 励

日晨上人要語録より

●人手不足

今、わが国は人手不足の問題で深刻な苦しみをなめています。大企業になると地方に出張所を設けて人集めに専念させ、一方では田舎に工場を建てて、その周辺の人々が自宅から通勤できるように仕向け、その他、福祉厚生施設の施設に金をかけて労働者を確保し、人手不足難の克服に躍起となっています。中小企業の経営者もいろいろの手段を講じて労働力の維持に一生懸命です。しかし、生産力と高賃金がつりあっている時期は、金のかかる労働力の食い止め策も可能でしょうが、これとて限界のあることで、人件費が生産力を上回ったら倒産より道がなく、現在、その兆しが出だしたので憂慮されているのです。労働者側もチャホヤされるのに調子づいて、骨の折れる職場はイヤだとか、レジャーの時間がほしいと労働時間の短縮をせついたり、設備が整い、システム化されているため、仕事が単

調で、それを離職の理由にするものもかなりあって、人手不足の波にのつた気のユルミが出ているとも感じられます。ですから今後、さらに人手不足が深刻になると、経営を続けられない経営者が増える一方だそうです。現在は倒産企業のうちニパーセントが労務倒産だそうですが、この先五十年には倒産の半数は、労務倒産だろうと予測している人もいます。まったく人手不足の問題は深刻な社会問題です。

ご信心の方にも、この人手不足問題が、いろいろと影響していることはだれでも気のつくことでしょう。「蔵の財より身のたから、身のたからより心の宝、第一也」とは日蓮聖人のお言葉ですが、信者も人手不足から生ずる高賃金に目がくらんで、お金になること、目前の一時の楽しみに魅力を感じて、身のタカラ、すなわち学問や技術を身につける大事を忘れたり、頭脳をきたえる努力を嫌う傾向が見えはじめたのは残念なことです。そんなことでは信心の徳を積んだり心

を豊かにする人間の特色を生かす道には進めず、ものの見方、考え方一つで徳不徳がわかれる道理もわかりません。それで幸せな人生が送れるでしょうか。心もとないしいです。

信心をあとへまはして銭もうけしたとおもたら又損をした

との御教歌のみ心を、よくくみ取らねばウソです。

また一方、日常のご奉公でも、人手不足時代を認識して善処しなければうまくいくわけがありません。といって信心が消極的になっても困りますから、骨の折れるときほど好機だと心得、上手に時間の余裕をつくって、ご奉公のありがたさを体得せねば信者とは申せません。事実、一人の改良は万人の改良で、こういうときこそ、ご奉公を重点的に行ない、先頭に立つ人が起死回生の成果をあげ、また今こそ「ご奉公がい」のあるときと積極的に進む人が時機相応の信心ぶりというものです。

五月のご奉公のすゝめ

◎「高祖日蓮大士七五〇回御遠諱」

報恩奉公 第一年度きりかえの年

一、日歡上人祥月ご命日

五月三十日は乗泉寺中興開基・佛立第八世講有日歡上人の祥月ご命日です。

日歡上人門下の私ども教講は、上人の並々ならないご苦勞とご信心前をお偲びして、報恩ご奉公に今こそ邁進させていただかなければなりません。

日歡上人が麻布・乗泉寺の御住職としてご就任なされたのは、明治三十四年十二月下旬、御年三十三歳の時でした。

当時のお寺は、雨漏りがひどいため、本堂も庫裡の畳もボロボロで、御宝前は荒れ放題で、また、御尊像も色はげ落ちて見るも無様な状態だったそうです。

そのような状況のもと、日歡上人は三時に起床されて四時に開門、七時までお看經をおあげになられ寒参詣を開始されたのです。そのご奉公によって、今までお寺参詣する人がいかなかったにも拘わらず、ご信者のお参りが始まり、お教化もできるようになり、乗泉寺のご弘通が伸びていったのです。

日歡上人は「ご弘通の思いをもってお看經に励み、御教えどおりに素直なご信心を貫かせていただく」と固い決意され、御住職就任以来二十年、大正十三年には信徒五千戸に達したのです。

また、お助行では現証のご利益が頂戴できるまで、詰め助行をなさり「ご利益をいただいたら、そこから喜びでお教化をする」と「ご弘通とは御法で人を助けることである」とご信者にご教導されたのです。

乗泉寺門末では、「五月は教化」という合言葉のもとお教化に力を入れる月です。

常照寺のご信者も、一人ひとりが日歡上人のご苦勞をお偲びさせていただいて報恩ご奉公に気張らせていただきましょう！

御教歌

うれしさを 忘れぬ人ぞ 世の中の
人にすゝめて 法を弘むる

二、前期ご奉公締切月・正宗徒各教区増加
令和十三年にお迎えする「高祖日蓮大士七五〇年御遠忌」の報恩ご奉公が、昨年の十二月一日よりすでに始まっています。

具体的な報恩ご奉公の誓願数値は第二年度目の時期総局に委ねるといことですが、今現在の私たちがなすべきことは「まことのお弟子信者をふやそう」というスローガンのもと、菩薩行の実践に勤めることです。

高齡少子化の波は止められない状況にあります。高年齢少子化の波は止められない状況にあります。今こそ、私たちが教講の正念場と受け取り、常照寺のご信者一人ひとりがご弘通ご奉公の大切さを真剣に考え、一人でも多くの方にお声をおかけして、お教化のご奉公を成就させ、また各教区正宗徒一戸の増加をさせていただき、前期ご奉公の締め切り月にふさわしい有終の美を飾りましょう。

また、本年度総祈願の項目に『次世代信徒育成の年』と謳われていますよう、各教区後続者の育成にも尽力させていただかなければなりません。

御教歌

奥深く わくる達者も 足弱の
ためには戻れ 法の山口

三、ご奉公成就のため朝参詣精励

何ごとにも物ごとを成し遂げるには、努力精進をさせていただくことです。

私たちのさせていただいている佛立のご信心はなおさらのこと、お教化成就のお計らいをいただくため、また、自分や家族のご利益をいただくためにも、まずは「朝参詣」に気張らせていただきましょう！

ご承知の通り、本年から「事務局新体制」のもと各部署でご奉公が展開されております。役務を拝受されている幹部さんが率先して朝参詣をさせていただくことが大切です。

朝参詣を実践させていただき、ご奉公成就とお教化成就の祈願参詣に励む中、おのずと自分自身のお願ひも必ず叶えていただけます。

ご信者一人ひとりがご利益をいただき、人さまに、自分のいただいたご利益を語り伝えることが何よりも大切です！

御教歌

朝起は なる程妙な 徳がある
して見ぬ人は これもわからず

◎日歡上人をお偲びして

日歡上人は明治二年五月二日、京都でご誕生になりました。お家は京都御所の御用を承る「赤銅屋」という大きな屋根瓦商で、現在の京都御所の今出川御門内にありました。

明治維新に、徳川幕府の大政奉還で、皇居が東京へ遷ることに伴って、日歡上人のご一家も東京赤坂表町へ移られました。

明治二十六年二月、田中弥惣吉氏、後の日歡上人は御年二十四歳の時、森下トミさんのすゝめで佛立講に入信し、武田松之助さんによつて御本尊を奉安してもらいました。佛立講の東京ご弘通も、日歡上人がお教化になられた頃が始まりでありました。

入信されてからの日歡上人は、武田松之助さんからお教化の大切なことを教わって、入信早々から、のちの第九世講有日声上人となる亀井信一郎氏と共に、ご弘通に挺身されました。明治二十六年二月ご入信のその年に、日歡上人はお教化を二十数戸成就されておいでになります。

日教上人を御導師にいただいて、当時の教講はこうした破竹の勢いでのご奉公が実つて、その年つまり明治二十六年八月、麻布霞町に親会場が認可されたのであります。

翌年、明治二十七年六月十日、この霞町親会場で初めて開導聖人の御正当会が奉修されました。その時の御正当会をお勤めになられた日教上人の立派なお姿に随喜感服された日歡上人はすぐ得度の決心をなさり、そ

のまゝ日教上人のお伴をして京都本山へ上がり、第二世日聞上人のご剃髪で得度、「清歡」と僧名をいただくことができました。

こうして日歡上人が、日教上人の最初のお弟子になられたのは、明治二十七年七月一日で、入信後僅か一年半のことです。

その後、日歡上人は、お師匠さまの日教上人に随つて大津佛立寺で半年間ご修行なさり、翌明治二十八年、日教上人が本格的にご弘通される為、東京へお帰りになるお供をして上京、東京のご弘通に教務として精励されることになりました。

東京のご弘通は、霞町親会場を拠点としてどんどん発展し、翌年明治二十九年には開導聖人の御七回忌に霞町親会場の開筵式が行われました。それから五年で清雄寺・光隆寺・乗泉寺等が当宗のお寺になりました。即ち明治三十二年、日教上人が清雄寺ご住職に、光隆寺は日声上人がご住職になりました。その後、明治三十四年十二月下旬、日歡上人が乗泉寺ご住職にご就任、御年三十三歳の時でありました。

当時の乗泉寺は荒廃の極で、お寺は無住で留守番だけ、建物は雨もりがひどくて畳はぼろぼろ、見るかげもない状態でした。

日歡上人は乗泉寺へお入りになられた当時、三つのことを心に誓われたと言われています。

- 一、私は日本国中誰にも負けないようにご弘通をさせていただこう。
- 一、私は日本国中誰にも負けないように沢山お看経をさせていただこう。

一、私は大尊師のみ教え通り信心で押し通らせていただこう。

こうして不撓不屈のご弘通教化を成就され、十年後の明治四十四年の記録では、日歡上人の受持一組で一六四戸もお教化が成就されたとあります。

それから二十年間、口唱と折伏で現証を顕してのご弘通発展は、やがて大正十二年、日晨上人に住職をお譲りになられる時には、実に乗泉寺信徒五千戸、お弟子一五〇名にのぼりました。ご弘通は遠く北海道にまで及び、末寺は五〇ヶ寺を数えました。

第三世日随上人は、日歡上人を「日本第一のご弘通家」と称賛されました。そして宗門は佛立第八世講有に推戴(すいたい)ご加歴されました。更に当時、佛立講の母体であった法華宗までもが、無住の荒れ寺からのご弘通発展を讃えて、京都大本山妙蓮寺の第六十一世住職に推戴されたのであります。

関東開教の基礎を築かれた日教上人、その恩師によくお仕えして、乗泉寺のご弘通の基礎を築かれた日歡上人、そのお跡を継がれて益々ご弘通を隆昌発展された日晨上人、この先師上人方のご信心、お師匠仕えの功德で、今日の乗泉寺及び門末寺院はあるのです。

どうぞ、このご恩を知って、お互いの随喜と信心の力を結集して、異体同心のもと本年度のご弘通ご奉公を円成させていただきましよう!

諸納金月報 令和6年3月 単位 円					法城護持基金	
教区名	部	義納金	御講賽銭	願主奉納金	基金	特志
寺	内				37,500	
	他寺院					
	常照寺					
城東	1	6,600	300	250	8,000	
	2	12,000		630	20,000	
	3	600		470		
	清原	3,900	350	390	10,500	
	陽北	9,900	1,200	600	16,500	
	西原	4,200	500	680	5,000	
	松原	7,800	200	380	6,500	
江曾島	1	8,700	250	510	17,500	
	2	10,500	500	810	28,000	
石宮	1	2,100	100	180	5,500	
	2	8,100	900	900	27,500	
壬生	1	2,400	50	150	7,000	
	2	6,000		710	31,000	
今光	1	14,100	600	740	24,000	
	2	2,400		150	3,000	
	鹿沼	3,900	300	260	9,000	
	矢板	9,900		240	2,000	
	玉生					
	那須		2,200	270	29,000	
	塩原		500	90		
	高根沢	1,800	600	180	6,000	
芳賀南	1	2,100		210	4,500	
	2	600	1,000	60	2,000	
	結城	2,400		200	4,500	
	湯西川					
	婦人会		900			
	社年会		900			
	市外合同		700			
	合計	120,000	11,350	9,060	304,500	0

「ご案内(重要)」
 「令和六年五月日程表」にも掲載されていますが、二十五日の「門祖日隆大聖人ご命日絵講」は晨朝勤行時に併修されます。
 御法門は七時四十五分からとなっていますので、お間違えがないようお願いいたします。



◎前橋本勝寺門祖会団参記
 ありがとうございます。
 この日はとても良い天気にも恵まれました。桜満開の中、令和六年四月十四日(日)午前十時過ぎ前橋本勝寺に到着しました。当山御住職内田日孝導師ご唱導のもと、厳肅に御開山会式が奉修されました。御教歌
 日くるれば 空にみちぬる その中で
 きらめく星の 数はすなし
 この御教歌は、夜空にキラリと光る「星」を例えに「同じご信者であつてもひとときわ輝く星のようなご信者になりなさい」と信者の心得をお諭し下された御歌であることが良く理解できました。
 帰り道、車の中で日慶上人のお話になりましたが、皆さんそれぞれいい思い出があり、とても楽しい雰囲気でした。
 日慶上人は、大きな身体でとてもやさしく、ときには厳しく、怖かったことやいろいろな思い出話が尽きなくとも楽しい団参でした。
 因みに、私は参与会で何度か本勝寺さんにはお参詣したことがあり、懐かしい気持ちになりました。無事常照寺に戻り本堂にて帰山のお礼をさせていただきました。ありがとうございました。

当山門祖会

四月二十一日(日)、当山門祖会を館林常信寺、御高職横谷日織御導師、ご唱導のもと厳かに奉修されました。

常信寺、常薫寺、常行寺、常法寺、各寺院のご信者の皆さまのお参詣をいただきまして盛況のなかに奉修させていただきました。遠方寄りのご来寺まことにありがとうございます。

御教歌

煩惱のほり払えばよき座敷

よそのむしろを尋るでなし

横谷御導師はこの御教歌を自分自身の持っている価値観を人と比べ、その人の持っている価値観と比べて羨んでしまう。そのようなことを自身で反省して、信心改良すればより良い功德が積ませていただけ、現世安穩後生善処のご利益がいただけますよとのご教導をいただきました。

とにかく、人の持っている物は良く見えがちなんです。すよー昔、「欲しがりません勝つまでは」のフレーズを聴いた覚えが有りませんか？

できそうで中なかできませんが「欲しがりません功德積むまでは」の境地で「奉公させていただけたら...」。

「言うは易し行いは難し」これが凡夫の我われですよね。これらをできないながら少しずつ達成できたならば、すばらしいことです。

人を羨み、何かしらを欲しがってばかりいたら、何か空しく感じませんか。

空しさを感ずればおのずと自分自身の心の中で「欲しがりません功德積むまでは」の心境に近づくように思えるのですが、皆さまはどの様にお感じになり

ますか。

お参詣人数は八十六名(寺内六十六名・団参十九名・他寺院一名)、御奉公者人数は五十八名でした。ご奉公者の皆さま、お疲れさまでした。

当日、くんげ会からも四人に「おしぼりのご奉公」をしていただきました。写真は練習の様子ですが、後ろ姿にも真剣さや緊張感がうかがえるかと思えます。渡邊向日葵さん・渡邊天音さん・齋藤考太さん・折茂

心愛さん、ごくろうさまです。また、よろしくお願います。



●事務局より
【月締め日の変更について】

現勢報告書の様式変更にともない、各奉納金・諸納金の月締め日を「二十五日に変更」させていただきます。出来るだけ小銭を避け、釣り銭がないようにお願いします。

【教区での取りまとめ】

御供米料・奉修費・(彼岸会・夏期総回向などの)ご回向料やお塔婆料なども、「個人ごとのお預かり」には対応出来ません。御供米料は各教区で取りまとめ、現勢報告書に記載しなければならなくなります。

【確認】

- ①金銭に関わることは、十四時までにお願いします。
- ②連絡事項がある場合、受付カウンター前に案内を掲示しますのでご覧下さい。
- ③事務所での「お塔婆の申し込み」は三日前までです。急なご用の場合、直接、教務までご相談ください。
- ④ごみの持ち帰り

寺内のごみは「事業系ごみ」の扱いのため、地域のごみステーションには出せず、有料回収となります。

お参詣の際には、ごみの持ち帰りをお願いします。先日、談話室内の小さなゴミ箱にペットボトルが押し込んでありました。暖かくなる季節ですが、特にペットボトルや缶類はゴミ箱がありませんで、各自で持ち帰り願います。



そろそろ「LINE」はいかがですか？

二〇一一年六月に誕生した「LINE(ライン)」は、無料でメッセージの送受信(トーク)や通話ができるコミュニケーションアプリです。インターネット環境さえあれば、国内外問わずどこにいても「LINE」でつながっている相手(友だち)と連絡がとれます。通話やトークメッセージ機能の他にも、アルバムやスタンプなど楽しく便利に使えるコンテンツが揃っています。

全国の十五歳〜七十九歳の男女を対象としたNTTドコモ モバイル社会研究所の調査(二〇二三年一月実施)によると、「LINE」の利用率は八三・七％となっています。七〇代でも七二・三％、つまりほぼ四人に三人の人が月一回以上は利用するコミュニケーション手段となっています。

「LINE」は、災害などの緊急時にも欠かせないツールになっており、中でも「既読」機能は、「メッセージ」を読んでいるということが相手にわかるため、安否確認として大きな役割を果たしています。

常照寺においても、「緊急連絡網」「局長室会議」「弘報」などの「LINEグループ」による事務局の連絡手段として活用しています。また、御講の日程調整などの連絡に利用している方も増えていきます。同時にグループ全員に連絡することが可能で、相手の都合の悪い時間帯とかを気にする必要もありません。

「元気?」「変わりはない?」「何か困っていることはない?」というやり取りを、電話やメールでもいいのですが、つい電話や文面を打つことが億劫(おっくう)になったり、後回しにして忘れてしまい、続かなくなってしまうことが多いと思います。

次に紹介するのは、宇都宮市内で一人暮らしをしている祖母と東京在住の二人の娘や三人の孫たちとのやり取りです。祖母が「おやすみスタンプ」を送れば、もう電話は

かかってきません。「おやすみスタンプ」に気づいたら誰かが「おやすみスタンプ」を送り返すことがルールです。朝も祖母が「おはようスタンプ」を送ると、気づいた誰かが、「おはようスタンプ」を送り返すことが暗黙のルールです。もちろん用事があれば、トークのやり取りもあるわけですが、何もなければスタンプだけでおしまいです。スタンプは孫娘がプレゼントしてくれるため、バリエーションが豊富でとても楽しいです。

実はこの「LINEグループ」のメンバーは十数人いるのですが、レギュラーは三人だけでほかのメンバーはスタンプやトークのやり取りを見ているだけです。しかし、たまに美味しかった食べ物やおすすめのお店、ちよとしたニュースや旅先の写真・動画などを送ってくるので、いいアクセントになっています。 たったこれだけのことですが、メンバー全員は「いつもつながっている」感覚でいるから不思議です。「見ている」見守っている」という感覚、これも「LINE」の醍醐味だと思います。ちよと無愛想で面倒くさがり屋のお子さんをお持ちの方、「LINEスタンプ」のやり取りを始めてはいかがですか？



私のひとりごと

栃木といえば、餃子のほかに「いちご」が有名ですよね。「いちごの生産量日本一」の座を守り続けており、最近では「いちご王国」とまで言われているそうです。

いちごの品種といえば……?と思いつかるのは「とちおとめ」ではないでしょうか?

県が一九九六年に開発し、全国各地に出荷されているのが「とちおとめ」だそうです。しかし今、その主役が「とある品種」と変わろうとしています。「とちあいか」という品種です。大粒な「とちあいか」は甘みが強く、ジュシーで酸味が少ないのが特徴です。名前の由来は「とち」の「あ(愛)」される「か(果)」じつになつてほしい「……」とのこと。これからどれだけ知名度を上げていけるか注目ですね。個人的には甘味と酸味のバランスがとれた「スカイベリー」が一番好きです。皆さんはどのいちごが一番好きですか? ぜひ自分好みのいちごを見つけてみてください! あすか記



宇陽山の散歩道

文芸への投稿感謝致します。令和六年二月より弘報への掲載が始まり、ホームページにある「ギャラリ」 「文芸」のコーナーでは、令和三年四月より「俳句、川柳、短歌」等々の投稿掲載が始まりました。令和四年七月からは、俳人である片桐基城先生(那須教区)により投稿作品に推敲、寸評、添削がなされ、今月号の弘報で四回目となりました。

弘報では先生からのコメントは掲載されていませんので、ぜひホームページをご訪問いただき、投稿作品を皆様方と共に共有しお楽しみ下さい。ホームページ「文芸」は立ち上げ時は投稿者が二、三名でしたが、現在では立ち上げ時の四倍となっています。締め切りはその月の二十日となっておりますので、宜しくお願致します。尚、紙面の都合により、今月号からは一人一句の掲載とさせていただきます。小中高生の皆さんの投稿大歓迎です。お待ちしておりますよ〜。

俳句

釣り人の裏で魚待つアオサギや	大和佳子	松原
あざやかな桜の山で深呼吸	澤村まつ子	矢板
境内の八百年余年芽吹く春	金子龍夫	江曾島
遠雷に急ぎ取り込む吾の衣	渡邊孝之	江曾島
鯉のぼり幼き日々の風にのせ	角田和道	今光
花吹雪去り逝く友の笑顔あり	清澤 修	壬生
朝陽の若人背に春風よ	青木幸子	事務員
片栗と花はヤシオノ古賀志かな	林 弘	壬生
露草の色鮮やかな雨上がり	金子敏枝	江曾島

川柳

古い友と会話はいつも繰り返し

清澤久子 壬生

短歌・狂歌

徳積む思いで受けた新役務気付けば罪障
積もりに積もる

安保 孝 江曾島

つれあいと小鉢並べて居酒屋ごっこ何を吞みます

「ねえ」だんな様

石川けい子 城東

人生訓

人生の重い荷物を降ろしたら
笑顔の道が待ってるよ

清澤久子 壬生

◎儀式部より

次回のお焚きあげは、五月五日です。
持ち込み品(可燃物のみ)事前のチェックを事務所で受け、冥加料をお納めください。なお、ガラス・陶磁器・金具などは、事前に取り外してからお持ち込みください。

紛らわしいものの判断などは、渡邊・前川・卯月・安保までご相談ください。



◇訃報

お詫び
四月号に掲載させていただきました、宇梶利男さん(今光②)の法号に誤植がありました。大変申し訳ありません。正しくは次の法号です。
「法号 本護院法警日利信士」

荒木 勲(江曾島①)

行年八十一歳(四月七日帰寂)
法号 如説院法勲質直日参居士

飯田俊明(松原)

行年七十三歳(四月十二日帰寂)
法号 本春院法持日俊信士

佐々木貞夫(江曾島②)

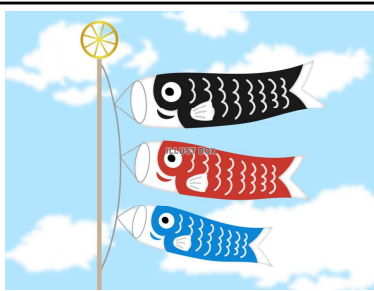
行年八十八歳(四月十三日帰寂)
法号 米壽院浄勲法徳日貞居士

心よりご冥福をお祈り申しあげます。

編集後記

ホームページの「ギャラリ」において、皆さまの作品について絵画のプロフェッショナルからアドバイスをいただけることとなりました。詳しくは後日紹介します。

団参や門祖会が中旬だったこともあり、今月号は特に締め切りとの闘いでした。ますます記事のストックの必要性を痛感しております。コラムやエッセイ、お店やレシビ紹介など、何卒よろしく願います。



常照寺HP
本門佛立宗HP



令和6年5月日程表

1	水	10時半 月始祈願総講 12時50分 役中会	16	木	9時 婦人会御講 五味冽礼子席 10時 護念寺開導聖人ご命日総講(宇清師出張) 12時 江曾島①乙講 荒木信治席
2	木	10時 護念寺月始総講(ご住職ご出張) 11時 今光①②乙講 高橋 稔席(4月分)	17	金	10時半 開導聖人ご命日総講 12時40分 三役会議
3	金	11時 結城教区 本堂回向 木暮紀子席	18	土	11時 芳賀南乙講 須永俊雄席 11時 自宅回向・石宮② 半澤節子席
4	土	10時 結城教区 納骨堂改葬 木暮紀子席	19	日	7時 男子信徒弘通促進助行(晨朝勤行時) 9時 壮年会御講 清澤 修席 10時 市外甲御講 林 弘 随行陽哲 14時 陽北甲御講 大槻清子席 随行宇清
5	日	7時 男子信徒弘通促進助行(晨朝勤行時) 9時 三役会議 11時半 本堂回向・西原 加藤秀美	20	月	11時 西原・江曾島甲御講 井上 保席 随行宇清
6	月		21	火	11時 江曾島②乙講 福田時子席 10時半 佛立修学塾 常信寺(宇清師・陽哲師)
7	火	※7日～9日まで宗務本庁へご出張(御住職)	22	水	11時 陽北乙講 住吉喜法席 11時 今光①②乙講 角田則子席
8	水	10時 護念寺報恩総講(宇清師出張)	23	木	11時 鹿沼乙講 前川長司席 14時 石宮乙講 稲見清子席
9	木	10時半 佛立修学塾 信教寺(宇清師・陽哲師)	24	金	11時 清原 乙御講 古澤幸子席 14時 城東 乙御講 阿部房子席
10	金	11時 石宮甲御講 鈴木サト子席 随行宇清 14時 西原乙講 田代 寿席	25	土	7時 門祖日隆大聖人ご命日総講(晨朝勤行時) 10時 評議員会 13時 本堂回向・松原 飯田隆裕氏 14時 本堂回向・江曾島 荒木孝明氏
11	土	11時 那須乙講 潮田良子席	26	日	7時 女子信徒弘通促進助行(晨朝勤行時) 9時 局長室会義 13時半 壬生乙講 館野美代子席
12	日	7時 女子信徒弘通促進助行(晨朝勤行時) 10時半 関越布教区総会 於・常法寺	27	月	13時 矢板・塩原・玉生乙講 阿久津 進席
13	月	10時半 高祖日蓮大士ご命日総講	28	火	11時 城東・清原甲御講 鈴木 仁席 随行陽哲 14時 高根沢乙講 石岡ノブ席
14	火	10時半 結城乙講 木暮賢二席	29	水	
15	水	13時 松原乙講 大和佳子席 11時 宗務本庁リモート会議(ご住職)	30	木	11時半 佛立第八世講有日歡上人祥月ご命日法要 於・乗泉寺世田谷別院 ※御住職、世田谷別院へご出張
			31	金	